



12月20日は生産者9名で出荷作業を行い、約3トンが金山を旅立った

山形大学東北創生研究所と(株)でん六、そして町が地域農業振興協定を結び、平成30年度から取り組んでいる「落花生産地化プロジェクト」。12月20日、初年度に採れた種子から栽培した『純金山産』の落花生が、(株)でん六へ出荷されました。

12月11日には、生産者のほか、3者協定を結ぶアドバイ



11月27日には、山形市内で表彰式が行われ、感謝状が贈呈された

長年選挙の管理や啓発に尽力されたとして、町選挙管理委員会委員長星川昭男さん(十日町)に、総務大臣感謝状が贈呈されました。

星川さんは平成15年に町選挙管理委員会に就任。平成23年からは委員長として、現在に至るまで、

町の高い投票率の維持に貢献されています。

感謝状の伝達を受けて星川さんは「選挙管理委員の皆さんの協力あって」と謙遜。また「投票率80%を目指して、若年層のさらなる投票を促していきたい」と、今後の目標を話していました。

ザーらで構成される町新産地開発協議会(青柳栄一会長)のメンバーが集まり、反省点や今後に向けた対策を協議。「収量は3倍程度増加したが、まだまだ足りない。単収も目標に到底届いていない」などと、厳しい意見も出されました。

一方今年度は、追い風となる支援も。新庄信用金庫と同協議会が挑戦する国産落花生の新産地化プラットフォーム構築事業に対し、日本財団「わがまち基金」として、1,000万円が交付されました。新庄信金の後押しもあり、地域全体で取り組んでいく体制が整っています。

来年度は栽培3年目。作ってみたい!という声も増えているよう。「多方面から応援をいただいている事業。ぜひ一人でも多くの方に生産してほしい」と、青柳会長は話していました。

長年にわたり保健衛生業務に寄与し、その功績が特に顕著であるとして、西田忠一さん(田屋)が保健衛生関係功労者山形県知事表彰を受賞しました。

西田さんは、平成10年から町衛生組合連合会の理事や会長を歴任。平成



12月2日に鈴木町長を訪問し、受賞を報告された

ま めづくり事業、今シーズンの成果はいかに 2年目のビーナッツが出荷

保 健衛生関係功労者山形県知事表彰を受賞 町衛連の会長を務める西田忠一さん

長きにわたる様々な地域活動が評価され、三上一雄さん(柳原)が令和元年度自治会等地縁による団体功労者総務大臣表彰を受賞されました。

三上さんは平成11年から18年間にわたり柳原区長として地区振興に尽力。平成19年から6年間、

町区長公民館長連絡協議会会長、町青少年育成町民会議会長に就き、町全体の振興にも貢献されました。また、柳原番楽の保存継承に力を注いでいるほか、幅広い年代の地域交流の旗振り役を担うなど、多岐にわたる活動が評価されました。



12月5日に鈴木町長を訪問し、受賞を報告された



金山町の景観施策の根幹を支える「街並み(景観)づくり100年運動」。その提唱時からまちづくりに携わる町景観審議会専門委員の林寛治さん、片山和俊さん、住吉洋二さんがこのたび、著書「まちづくり解剖図鑑」を出版されました。金山における約40年の試みを中心にとめられています。

12月5日には、3名が町役場を訪れ、「若手の職員を中心に読んでいただき、これからのまちづくりに活かしてほしい」と町に150部を寄贈くださいました。なお本著書は、全国の書店で一般販売されています。



④寄贈いただいた「まちづくり解剖図鑑」。その名の通り、全ページ図解で読みやすい ⑤3名の専門委員の想いととも鈴木町長に直接寄贈された

長 きにわたり地域振興に大きく貢献 三上一雄さんが総務大臣表彰を受賞



12月11日には鈴木町長から直接辞令が交付された

平成10年から教育委員長3期を含む長きにわたり町教育委員を務められた阿部由里子さん(片貝)の退任にともない、新たに小向達之さん(檜台)が町教育委員会教育委員に就任されました。任期は令和5年12月10日までの4年間です。

現在、明安小学校のPTA会長在任中である小向さんは「子どもたちとふれ合う機会はあるが、教育に関して深く考える機会が少なかった。次世代の子ども達にとって何が一番なのかを考えていきたい」と決意を述べられました。

新 たに小向達之さんが教育委員に 「次世代のために尽力していく」

金 山での試みを「まちづくり解剖図鑑」に 景観審議会専門委員の3名が著書を町に寄贈

片山さんは、3名を代表して「街並み(景観)づくり100年運動もまだ道半ば。本書を読んで、次世代がこの物語の続きを作ってほしい」と想いを語られました。鈴木町長は「景観とあわせて、本書も町の貴重な財産だ」と応えられました。